

「Evidence-Based Medicine/Evidence-Based Healthcare/コクラン共同計画の勧め」

— JA ミュア・グレイ —



JA Muir Gray, CBE, MD, FRCP(Glas&Lond)

当時：イギリス国営医療(NHS) のアングリア& オックスフォード地区研究開発部長、コクラン共同計画財務担当理事

現在：National Electronic Library for Health (NHS 内) の Project Director

エビデンスに基づく医療、エビデンスに基づく保健医療および医薬のビジランスを推進するための、重要でしかも、記念すべき会議に、私達をお招きいただき、大変光栄に思います。

私達は、イギリスのオックスフォードにおいて長年、このことに取り組んできました。その中で、私たちは、世界中のどの国でも、医療費および費用負担の増大が大問題となってきたことに気づきました。これは、(1) 高齢化、(2) 患者の期待の高まり、(3) 知識や新しい医療技術の高度化という3つの大きな要因によってもたらされています。

わたし達はこの重要な課題に対して、正面から取り組んできました。医療の質を向上させつつ、医療費の削減をはかることができるかどうかです。

エビデンス抜きにはどんな社会でもこのことは達成できません。技術を選別しなければなりません。エビデンスに基づいて、正しい技術 (right things) を選び出す作業です。以前、人は、信仰や他の人の意見、あるいは使われる金額（価格）によってチョイス（選択）していました。しかし、これからは、利用できる限りのベストエビデンスに基づいてチョイスがなされる必要があるでしょう。

しかし、そのチョイスは個々の患者で違いますし、また意志決定者である個々の臨床医によっても異なります。そこで、すべてのチョイスにかかわる意志決定には、科学的な判断が重要な役割をすることになります。このようなことは、実は以前には見られなかったことなのです。

このような動きが、日本でも生まれようとしています。浜さんや別府さんの仕事、その他コクラン共同計画に賛同される多くの人の仕事は、これらのことを日本で推進するために、非常に重要なものです。このような日本における取り組みは、強く押し進められるでしょう。皆さん方と、連携して、このような事業を進めることが

できることは私達にとって喜びです。

ニコラス・ヒックス博士は、イギリスにおける EBM (Evidence-Based Medicine)、EBHC (Evidence-Based Healthcare) の若手のリーダーです。「エビデンスに基づく判断 (evidence based decision making)」、「エビデンスと価値との関係」を最も深く考えている人です。

皆さん方全員と交流をし、オックスフォードでの Evidence-Based Medicine, Evidence-Based Healthcare との間の連携が作り上げられるようにしたいとおもいます。コクラン共同計画に参加していただく日本の皆さんには、とくにオーストラリア・コクランセンター（アジア、オーストラリア地域のコクランセンター）との連携をも密にして、この大きな意義ある事業を達成されるように望みます。

私達との連携を提案して頂いたことをもう一度感謝するとともに、この意義ある会議に参画できる機会を与えて頂いたことを名誉に思います。Nic Hicks 君が、よい橋渡し役となるでしょう。

イギリスでまたお会いできること、そして、日本をまた訪問できる機会を楽しみにしております。

1997年9月

オックスフォードにて